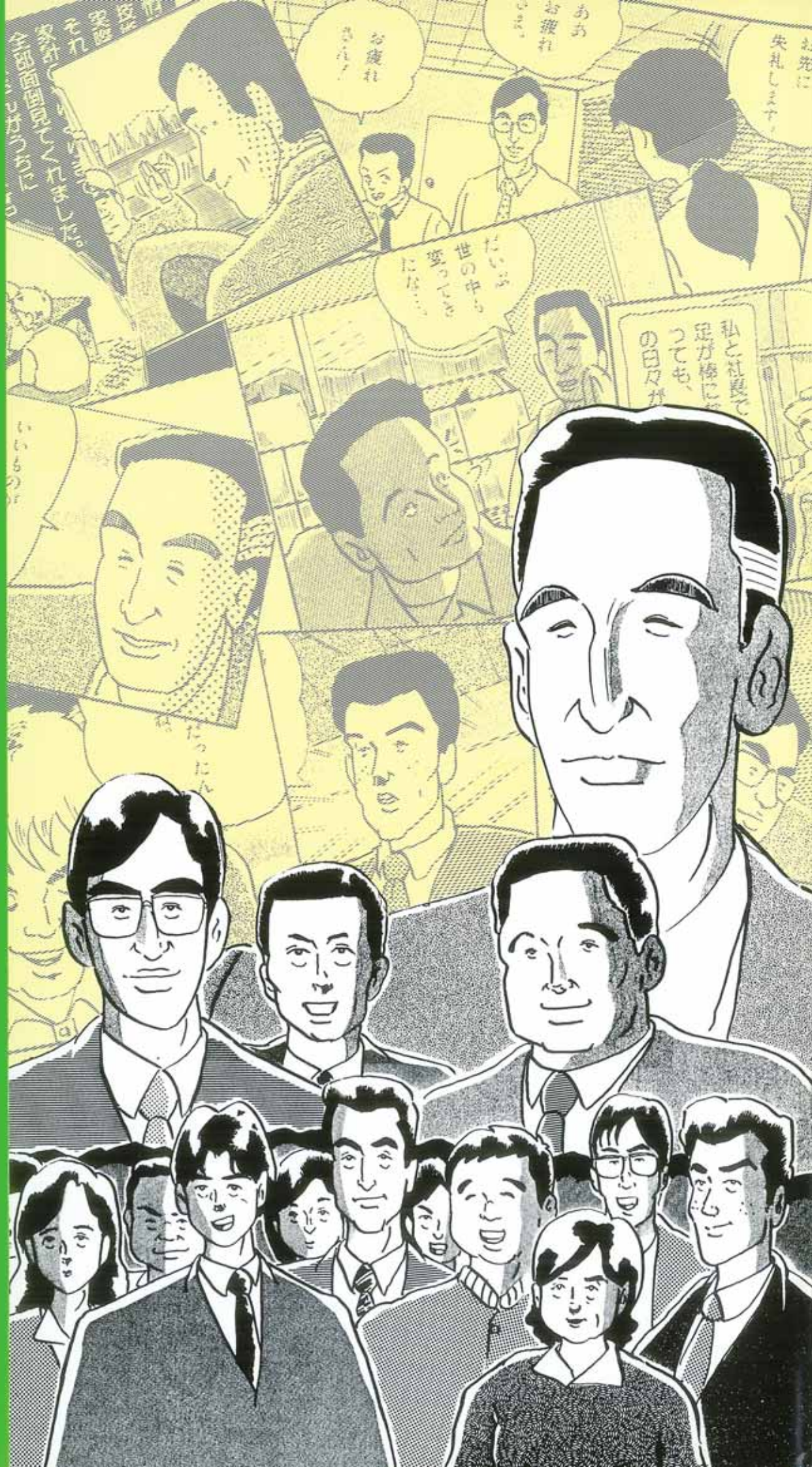


馬場飼料物語

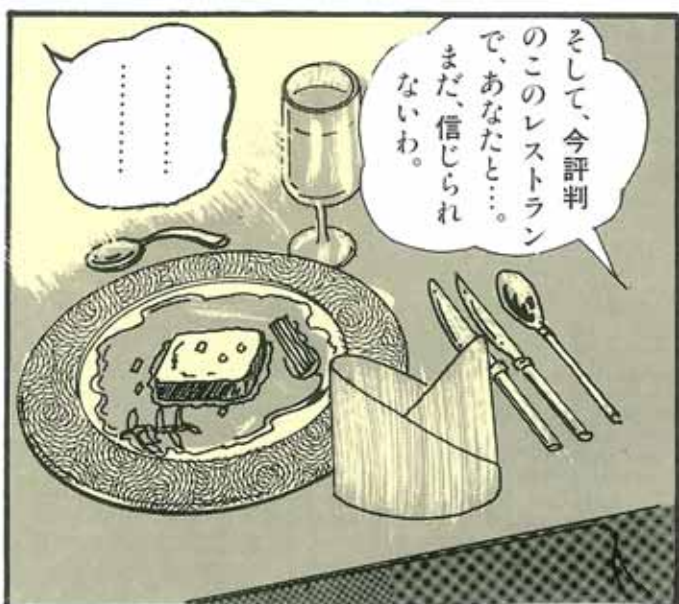
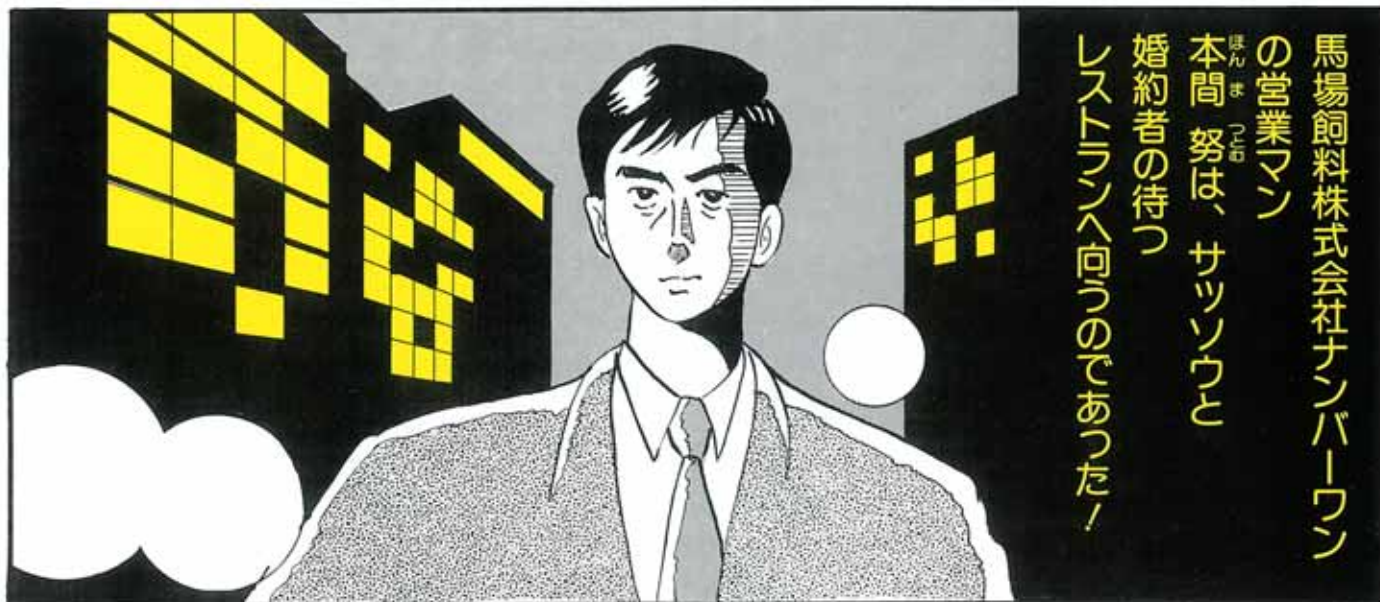
企業マンガ



企業マンガ

馬場飼料物語

食文化創造。大いなる未来へー。











植木飼料配送センター

熊本県鹿本郡植木町

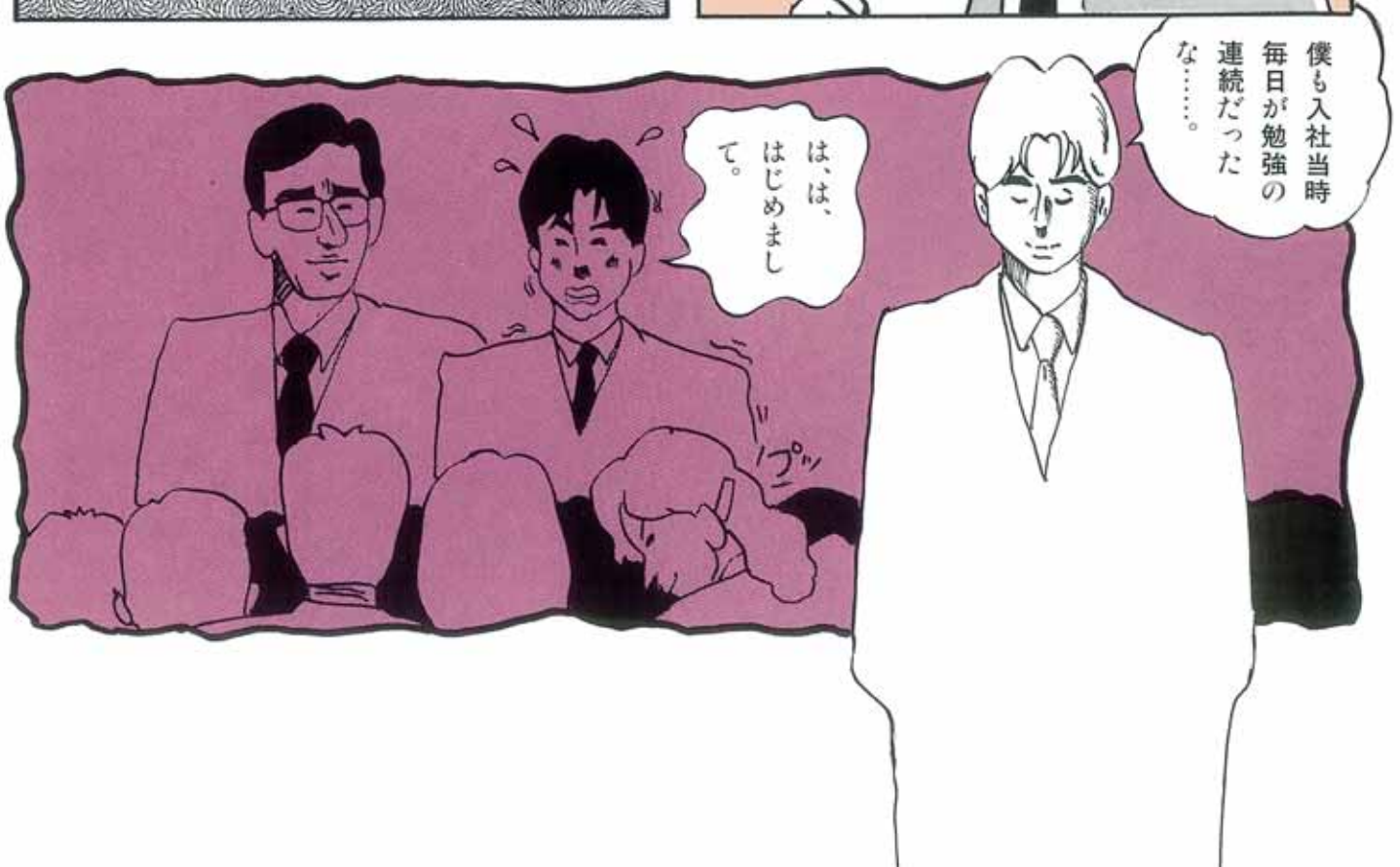
飼料配送センターの年間取扱量（養鶏及び養豚用飼料）は約7万トン。機械化された近代的な施設では、スマートでスピーディな配送業務が行われている。
 また、ここは、取引先畜産農家の研修の場としても活用されている。



コーディネーター
 が遅刻して
 どういうつも
 りなんだ...
 この野郎！



遅い！
 遅刻
 だぞ。





旭志農場

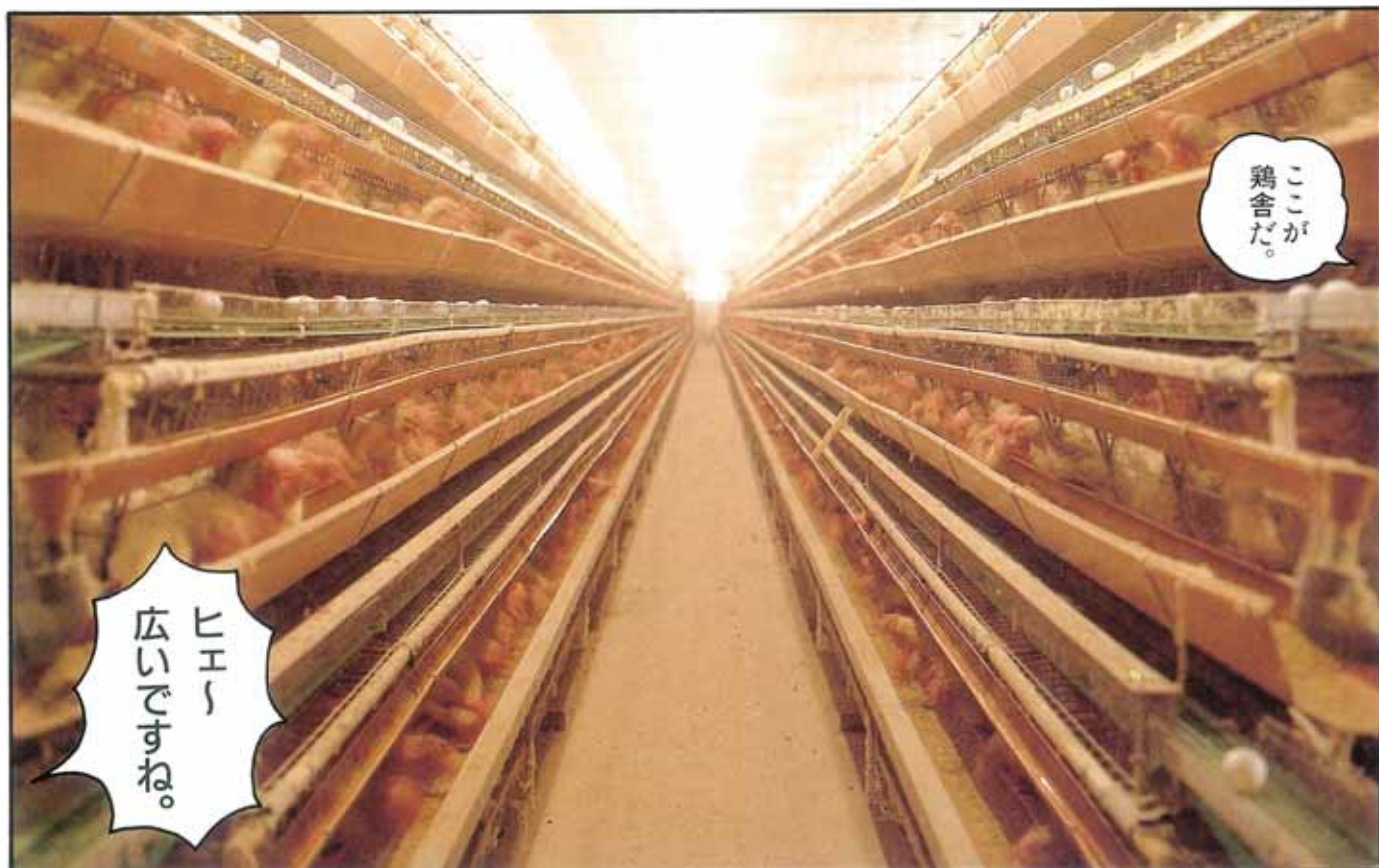
熊本県菊池郡旭志村

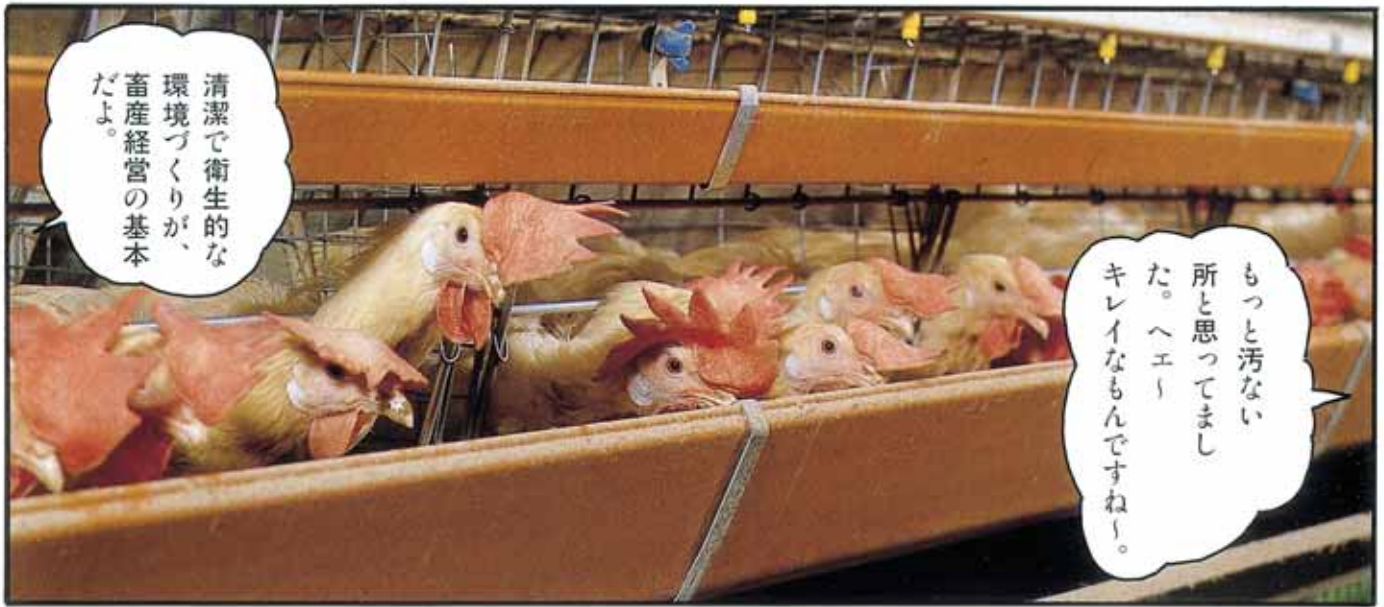
創立以来培われてきたインテグレーション（生産から販売までの一貫システム）の精神をカタチにした「第2歩」ともいうべき当農場は、畜産経営の基本である「清潔で衛生的な環境づくり」が早くから樹立されていた。



ここが
鶏舎だ。

ヒエー
広いですね。





エッグセンター

福岡県八女市大字蒲原

多くの人々がイキイキと働くエッグセンター。

食品衛生システム

HACCP導入を前提に、

徹底した衛生対策と厳しい

品質チェック体制は大きな

信頼となり、

卵の年間出荷量は

約15,000トン(約2.5億個)

その出荷先は、九州は

もちろん、関東、

関西まで広範囲に

わたっている。

ここがエッグセンターだ！



すごい量の卵ですね！





大伸ファーム 福岡県八女郡上陽町

馬場飼料株式会社との関連会社として昭和59年に創業した有限会社大伸ファーム。その近代的な施設は、数多くの畜産農家を育ててきた馬場飼料株式会社の情報力と技術指導力をあらわすにふさわしいレベルを誇っている。





ゲゲッ！
養豚場がこんなに
きれいだなんで……！

どうだ！
くさいか？
汚いか？



豚は年間、2回
出産するんですよ、
本間さん。



ここには約200頭の
母ブタがいますから、
年間出荷頭数は
約4,000頭です。



取引先の養豚農家も
みんなこういう感じですよ。
お客さまに喜んでもらえる
ブタ肉は、
近代的で清潔な環境
そして、きめ細かな愛情によって
生まれるんです。



※この冊子に掲載の数字は、平成4年9月末実績です。

育まれてきた情報力と技術指導力。



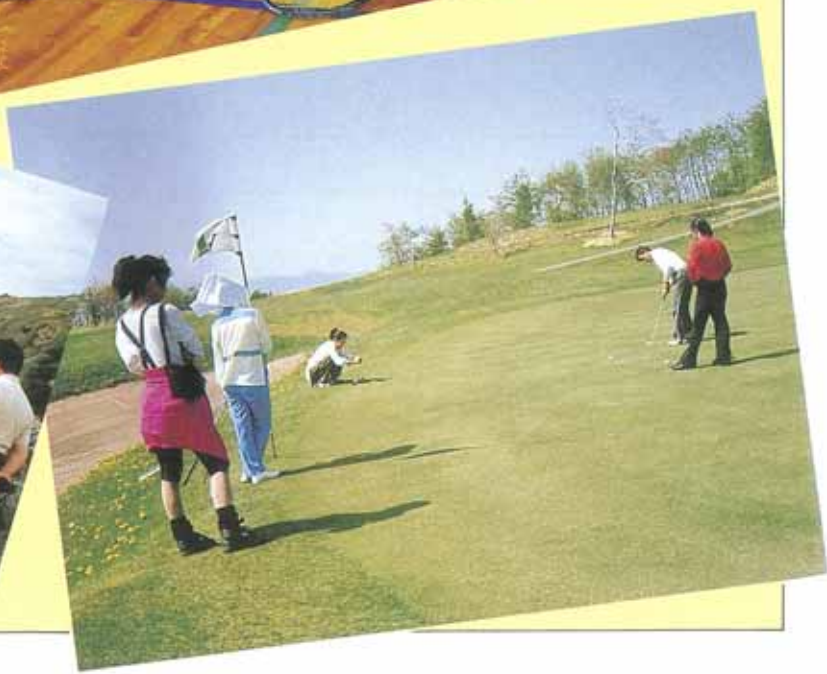
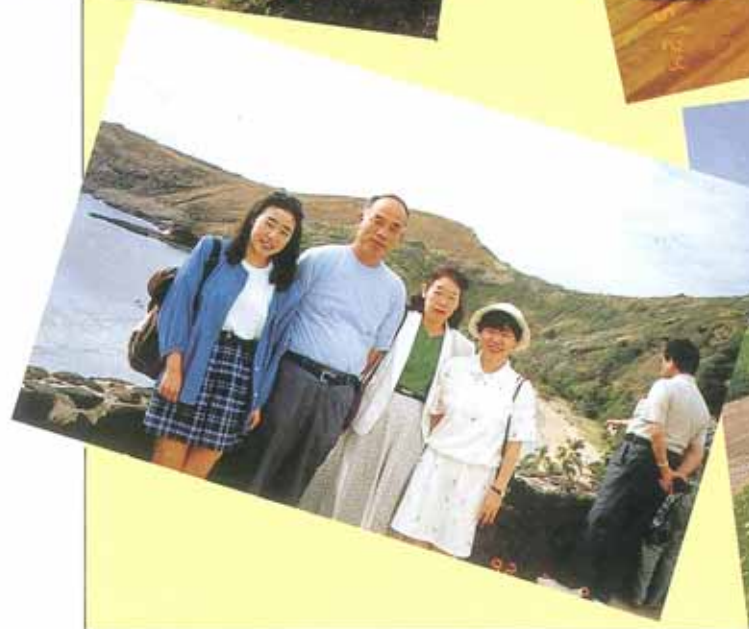
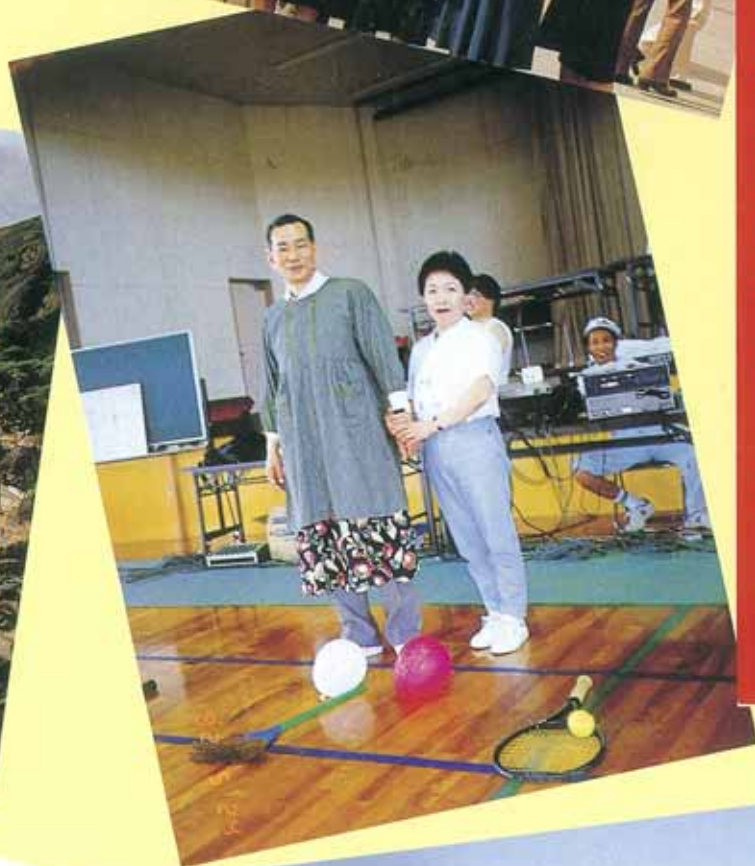
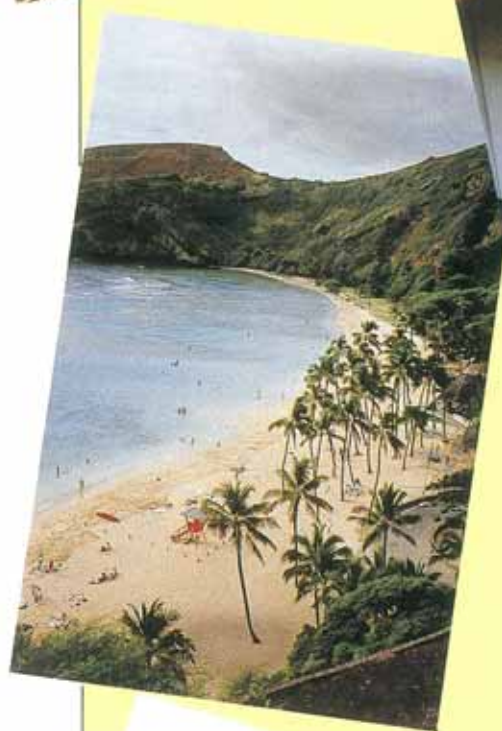








永年勤続者の海外旅行や、
毎年行われている全社員での体育祭、
慰安旅行に親睦会、
そして、クラブ活動や休暇制度など、
社内活動の活発さも馬場飼料株式会社の大きな特徴となっている。





※CI (Corporate Identity=コーポレート・アイデンティティ)企業の顔づくり(直訳)。企業のイメージを確立しようとするマーケティング戦略のひとつ。見えにくい企業の顔を分かりやすく認識(企業認識)させたり、企業の経営理念を広く世間に訴えたり、また、これらを正しく理解してもらうために行う具体的な行動など、この全てを包括した「企業活動」を指す言葉。





きっと
社員の意識が
さらに向上する
きっかけに
なるはずですよ。



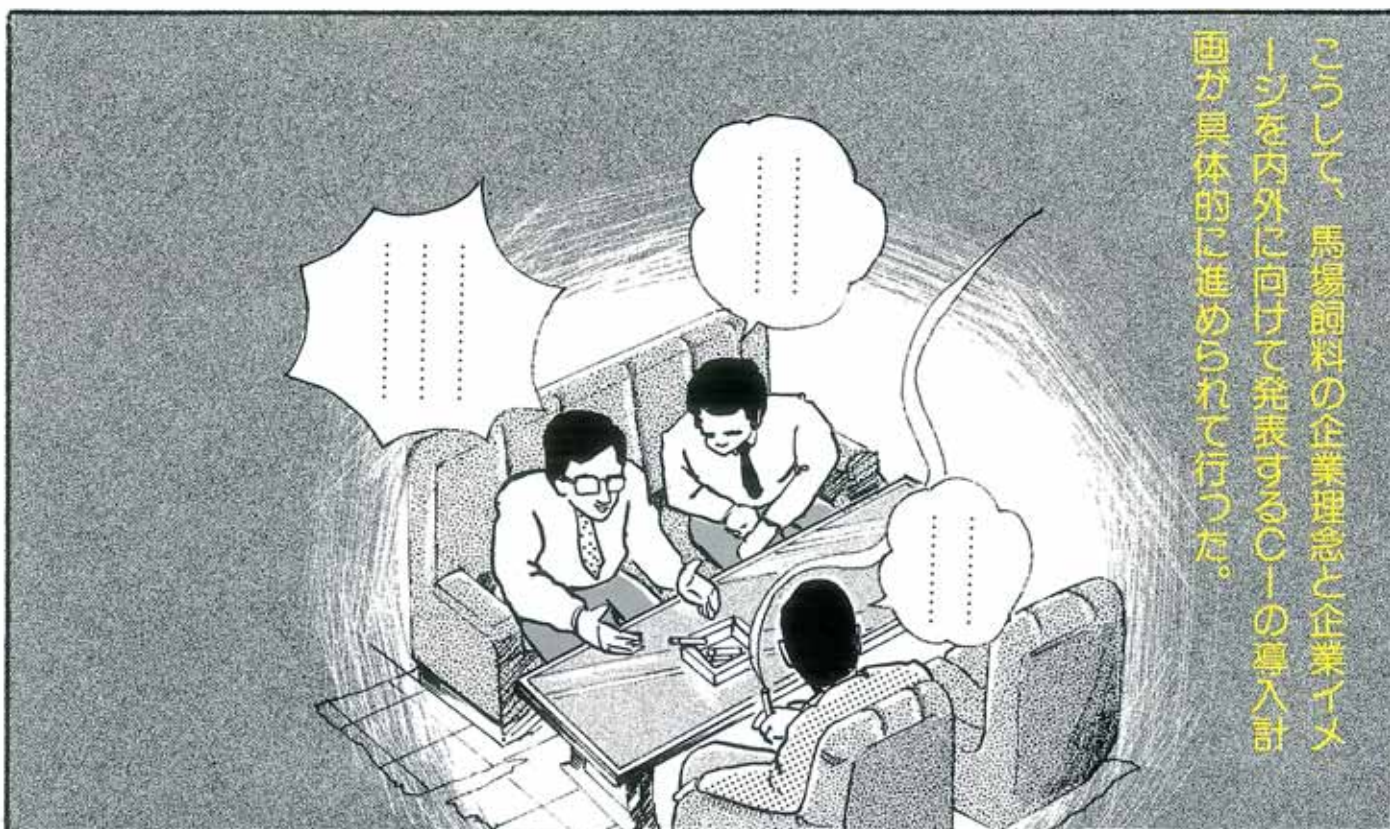
社長//
実は今
僕たちも
その話しをして
いたところなんで
すよ。



ぜひ、
C-Iを
導入しましょう。



我が社も
畜産農家、畜産加工業者、
畜産物販売業者を
コーディネートして、
生産から販売までを
一貫して行う
畜産インテグレーションを
さらに充実させる
時期でもあるし……。



こうして、馬場飼料の企業理念と企業イメージを内外に向けて発表するC-Iの導入計画が具体的に進められて行つた。



という訳で
我が社は
CIを導入する
ことに決定いた
しました。

へー



シッ!
後で教え
てやるよ!

では、
CI委員を
発表します。
営業部
から
本間!



先バイ
CIって
なんです
か?



**本間!
返事を
せんか!?**

エッ?

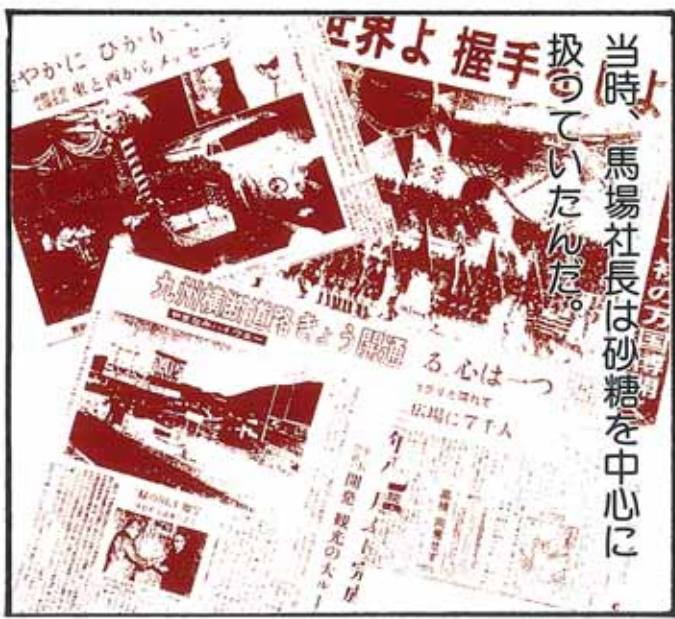
ま、ボクには関係
ないスけども、ハハ





という訳で
常務、
よろしくお願
いします。

熱心だな、
よし、分った。
まあ、座んな
さい。



当時、馬場社長は砂糖を中心に扱っていたんだ。



創業は、
東京オリンピックの前の年
昭和38年だ。



飼料は片手間につて感じてね。
昭和38年と言えば高度成長時代の真つ只中。
家庭に電化製品が普及し、
スーパーマーケットも急増していった時代だった。
日本人の食生活も
どんどん変化していった。





昭和40年に
法人登記をして……。
養豚用の飼料を
扱い始めたのは、
昭和46年。
スタートは厳しかったよ。
畜産業の先進県である
熊本県にアプローチを
かけてもかけても、
すでに取引先は決まっている
という理由で



うちはもう
決ってる。
忙しいから
帰ってくれ。



私と社長で
足が棒になるまでたずね回
つても、まったく成果なし
の日々が続いた。



そこで、母豚が5〜10頭の
小規模農家に話しを
持つて行つた。
もちろん最初は
どの畜産農家も乗り気
じゃなかつたんだが、
次第に取引先は増えて
いったんだ。





厳しいだけだっ
たら、誰も社長につ
いて行かない。
社長はけっこう情が厚い人
なんだ。
畜産農家の新築祝いの時
だったかな
あの無口の社長が
祝い歌を披露してい
たのには驚いたね。

社長業のかたわら、八女市商工会議所会頭(平成9年現在)をはじめ、さまざま
な公的要職を依頼され、超多忙な日々を送る社長。社長の人望の厚さ
も馬場飼料株式会社の大きな財産である。



いつかは、
結婚を反対されている
若い2人から相談され、
両親の説得から仲人まで
引き受けたこともあった。
どんなに忙しくても、
頼まれればイヤと言えない。
仕事では、鬼、だけどね、
ハツハツハツ！

……

熱き想いで、新たなる時代へ！





これが我が社の
新しい
コーポレート
マークだ!!



馬場飼料

■コーポレートマークに込めた意味

馬場飼料株式会社の頭文字であるBをモチーフに展開したものです。

3つのブロックはそれぞれ「畜産業界」「馬場飼料株式会社」そして、このふたつの力が築く「豊かな食文化」をあらわしています。また、同時に、馬場飼料株式会社の企業理念である「高い情報力」、「高い技術指導力」および、これらを提供しながら目指す「豊かな食文化の創造」の意味も合わせ持っています。ウェーブを持った形によって、畜産業界と共に常に新しい波を起こしながら、多彩な事業展開を行って、ゆく姿勢を、また、右上に突き進む力強い形によって、永久不変に若々しい企業活動を続けて行こうとする熱意と意気込みをあらわしました。

■コーポレート・カラーに込めた意味

「馬場オレンジ」は、目標達成へ向けてたゆみない努力を続ける馬場飼料株式会社の全員のチャレンジ精神や熱い情熱、そして、お取引先に信頼され長いおつきあいをしていただける馬場飼料を象徴したものです。

「馬場グリーン」は、身体に優しい畜産物を生産する畜産業界と畜産物が築く豊かな食文化、そして、健康的な食生活を象徴したものです。

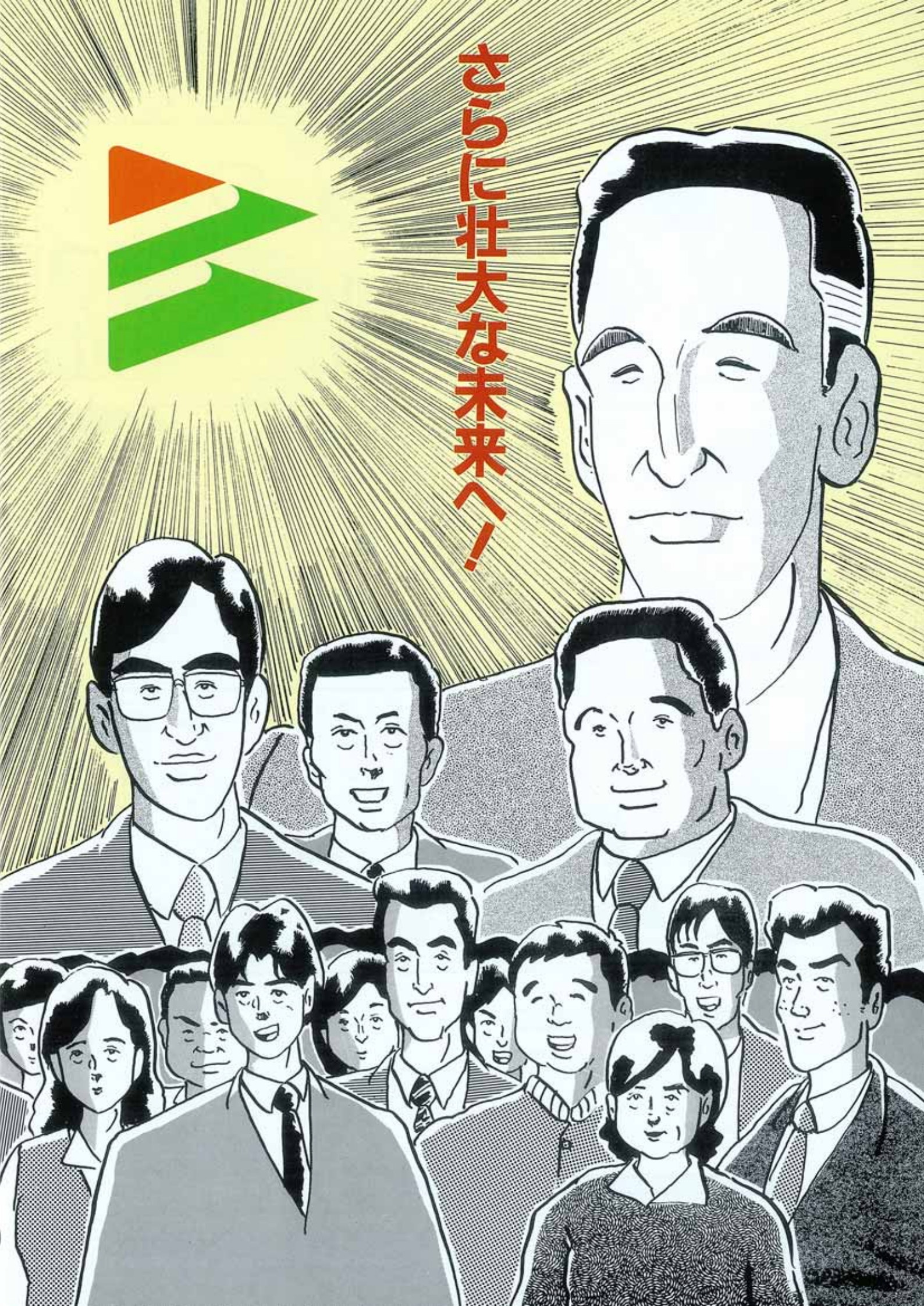


取引先支援システムのさらなる充実

1. 畜産インテグレーションの展開
畜産農家・畜産加工業者・畜産物販売業者をコーディネートし、生産から販売までを一貫して行うシステムの展開。
2. マーケティング力の充実
科学的な根拠に基づく企業活動の展開。
3. テクノロジー力のアップ
技術力・指導力の、さらなる向上と充実。

顧客満足と従業員満足のための積極的な改善策実施

さらに壮大な未来へ！





馬場飼料